



3月

園だより

～きづき～

3月は旧暦で「弥生（やよい）」とも言います。弥（いや）は「いよいよ、ますます」生（おい）は「生い茂る」を意味し、もともとは草木が芽吹くことを弥生（いやおい）と言っていたものが転じたそうです。元気に遊んでいる子どもたちを見ると、この言葉がぴったりだと感じるこの頃です。今思い返せばあつという間の1年間でしたが、成長した子どもたちの姿がより一層頼もしく感じる今日この頃です。

今のクラスで過ごすのも残り1カ月となりました。子どもたちと一緒に一日一日を大切に、しっかりと過ごしていきたいと思えます

お弁当日は3/15(土)です

お弁当と食具を持たせてください。

おやつと飲み物は園で準備いたします。

3月行事予定

- 10日(月) 身体計測
- 13日(木) 健康診断
- 21日(金) お別れ会
- 26日(水) 避難訓練
- 29日(土) 修了式(2歳児参加)

発表会ごっこ ちよっとドキドキ



頑張りました



お知らせ・お願い

・2月15日(土)は、「発表会ごっこ」では、ご参観ありがとうございました。無事に終えたのも保護者の皆様のご協力でした。ありがとうございました。

・3/29(土)2歳児クラスの修了式を行います。他のクラスで、この日保育を希望される方は担任にご相談ください。

・新年度の購入用品(シール帳・誕生カード)の申し込みを後配布いたします。申込書と代金を封筒に入れ、降園時に職員玄関までお持ち下さい

・4/1より、一つ上のクラスになり、担任も変わります。また、新しいお友達も入って来ます

気をつけましょう

・発熱のお子さんが多くみられます。

気温の差がありますので、体温調節が難しいこの頃です。食事前には手洗いをしましょう。

休日は無理のない過ごし方をしましょう。





キッドエッセイ 60

総合園長 牧野桂一先生

今年度はたくさんのエッセイをいただきました。保護者の方に今を大切に
常に言ったださっています。こどもがいちばん・こどもにまっすぐ・こどもがまんなかです

子どもの笑いと発達

子どもと生活をする中で最も幸せを感じるのは、何とも言えない子どもの笑顔との出会いです。あの子どもたちの笑いの中にと私たちも幸せになって笑顔がこぼれてきます。

先日、子どもをお迎えに来ているお母さんが「何で子どもはいつも可愛く笑って私たちを幸せにしてくれるのでしょうか。」と語りかけてくれ「子どもの笑いにはどんな意味があるのでしょうか。」問いかけられました。言われてみると大変興味のある問題ですので、この機会にそのことを少し考えてみたいと思います。

この子どもの笑いについては、こども園教育・保育要領や保育所保育指針の中でも「身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ」ことの大切さや「友達と共に過ごすことの喜びを味わいながら喜びや悲しみを共感し合う」ことと関連して友達や周りの大人と一緒に笑ったり、ほほ笑みあったりする親密なコミュニケーションの大切さが強調されています。また、生後6ヶ月未満の子どもには、泣いたり笑ったりすることに対して応答的に関わるのが子どもの発達に重要な役割を果たしていることが示されています。

子どもの笑いには新生児にみられる外の刺激に関係して笑う「うぶ笑い」といわれる新生児微笑があります。あの笑いによって周りの大人は言葉に尽くせない幸せを感じます。その喜びはそのまま子どもに伝わります。子どもはこの笑いという最高の宝物を持ってこの世に生まれてきているのです。この笑いの交換によって子どもは幸せに生きていく生き方を学び、周りの大人を喜ばせてくれる社会的微笑を身に付けていきます。そして、この笑いは脳の発達にも大きな影響があることもわかっています。

したがって、子どもの笑いが何らかの原因で妨げられると、子どもの愛着形成が上手くいかず、人間関係や言葉などにも様々な問題が起こってきます。このように子どもの笑いは深い人間関係から生まれてきていることが分かります。

子どもたちが笑うことより脳は心地よくて楽しいことを認識し、幸福感を感じます。楽しい、面白い、心地よいという実感は、脳内で働くドーパミン、セロトニン、オキシトシン、ベータエンドルフィンなど神経伝達物質の分泌を促し、脳を覚醒させ幸福感を生み出します。つまり、子どもの笑いは、「脳の動きを活発にする」「ナチュラルキラー細胞が活性化して免疫力をアップさせる」「自立神経を整える」などの働きがあるのです。そして、この素敵な笑顔は、「辛いことがあっても子どもの笑顔を見ると元気になる」「子どもが笑っているだけで幸せになる」と私たちに感じさせてくれます。

一方で、多忙な現代社会の人間関係の希薄化の中で、このような笑いの交流が減っていき笑いが少なくなっているという現実があります。このことは、子どもの笑いは、現状のままでは育っていかないということ教えてくれています。周りの大人は、子どもたちの成長や発達にとって欠かすことができない笑いを日常生活の中に意識的に創り出していく工夫が必要になっているのです。ここで子どもとともに笑いを作り出す工夫について少し考えてみたいと思います。



最初に、笑いを作り出すためには、子どもと「いい関係を作っておく」ことが大切になります。子どもは自分が認めた好きな人とのふれあいの中でしか、本当の笑顔は生まれてきません。何をしてもすぐに笑顔になってくれる子どもがいますが、それは、その子どもがその人を認め、その人に好意を持っているからなのです。好きな人が抱っこしてくれればそれだけで笑顔がこぼれます。そばにいてくれるだけで子どもはニコニコするのです。逆に「知らない人」や「嫌いな人」にされると楽しいはずの遊びであっても子どもは笑わず、むしろ嫌がったり泣き出したりしてしまいます。次に、子どもが「楽しい」「嬉しい」「面白い」と感じる関わりをすることです。小さな子どもは、いわゆる「作り笑い」ができませんので、あくまで「自分自身が楽しい、嬉しい、面白いと感じている」ことでなければ笑いは生まれてきません。でも、子どもたちは、これら3つのうちのどれかを感じたときにはすぐに笑顔になります。ですから、日常の中で、子どもが「楽しい」「嬉しい」「面白い」を感じる関わりを心がけていくことが大切になるのです。

最後に、子どもの周りには大人自身がよく笑うことです。「笑顔は伝染する」とよくいいますが、よく笑う人の周りにはたくさんの笑顔があります。お母さんやお父さんがよく笑う家庭では、必ずと言ってよいほどよく笑う子どもが育ちます。「絵本を見て笑う」「家族や近所の人と話すときに笑う」など、子どもに笑顔を見せる機会を多く作ると、子どもも笑顔が多くなります。

古い仏典の中に、仏様のお弟子の中の一人が、お釈迦様に「私たちが生きていくのに最も大切なものは何ですか」という質問をしたそうですが、その時お釈迦様は、そのお弟子さんに花を掲げて微笑んだ（拈華微笑）といいます。お弟子さんはそれをみて「人生で一番大切なもの笑顔なんだ」ということが分かってお釈迦様に笑顔を返したという有名な話があります。

子どもの「笑い」とは知的な発達証であり、子どもの情緒の成長につながる重要な行為であるということが確認できたと思います。「笑う門には福来る」ということわざもありますが、子どもとともに一緒に笑いながら笑顔に満ちた一日一日を過ごしていきたいものです。



子どもの笑顔が一番。そんな笑顔を見せてくれる子どもたちと過ごせる私たちは幸せです。「ありがとう」と言いたいですね。
子どもを授かった気持ちを忘れずに、笑顔で歩いていきましょう。

保護者の皆様へ

令和6年度も大変お世話になりました。温かいご支援とご協力を心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

新年度も子どもたちが健やかな成長ができるように、職員一同頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

